

短期トレーディングの手法 番外編

パンローリング書籍を読む マベリック投資法を読む

筆者は、パンローリング書籍の大ファンである。通常、新作が出版されるといそいそと読み始める。大抵はその時近くにあったラインマーカーと一緒にいる。ラインマーカーは黄色のときもオレンジのときもピンクのときもある。それでも、ラインマーカーを最後まで持っている書籍はまれで、ましてや書き込みすることはもっと稀である。マベリック投資法は実は最初の数十ページを読んだ時点でかなり興味を失ったことを正直に告白しなくてはならない。最近はやりの「金持ちになる法」というのが嫌いということもあるのだが、100%株式に投資するという部分でかなり反感を持ったのだ。ご存知の通り、この3年間、米国においてすらも債券のパフォーマンスは株式を圧倒している。100%株式に投資して、勝てるはずが無い。どんな株式に投資していても国債のパフォーマンスに圧倒的に劣後していたはずだ。100%株式投資とはばかっている…。

しかし、そうした疑念と「これはまたいわゆる金持ちハウツー本なのではないか」という筆者の疑念は徐々に解けてきた。そして最後にはこれはおそらく殆どの素人（すまない）にとって非常にわかりやすく、また実践できる良書であると思うようになった。筆者が共感し、正しいと直感的に賛同できる個所を上げてみる。

1. 売りが大切
2. モダンポートフォリオ理論が推奨するリバランスはしない
3. シンプルで納得できる方法は規律を生む
4. 株価の方向は絶対に予測しない
5. IPOには否定的。
6. 変化に備える
7. ストップロスを利用する
8. トレンディング

まず1. 利益は確定しなければ、意味はない。トレードにおいてももっとも難しいのは「手仕舞い」である。手仕舞いは危険だ。なぜならばせっかく乗ったトレンドのままに暴発の直前かもしれないからだ。だが、いつか手仕舞わなければ利益は損失に変わってしまう。いつ「手仕舞い」するのか。マベリックには明確なルールがある。しかも、その手仕舞いルールが12 - 15%ストップロスと200日移動平均のブレイクである。非常に簡単だ。これは非常に良い点だ。

次にMPT通りにしない、というのが良い。投信を5 / 10 / 20ルールによって評価してしまうのだ。4半期に5%、半年に10%、年度で20%の利益が上がらない投信は売却対象である。リバランスは通常上がったものを売り、下がったものを買う。マベリックはその逆をする。これは筆者の経験的にも「絶対正しい」と言える投資方法だ。

3. いろいろ忙しいものだ。現代人は特に。更にこの投資法は投資信託に特化しているので、実は機関投資家のファンドマネージャーもこの方法を取ることが出来る。実際、個別

株はインサイダー取引に該当するが、まあ投信の売買はインサイダーとは言い難い。機関投資家のFMで優秀な人間でも自己資産の運用は結構無頓着であり、また自己資産までマーケットにさらしながら必死にやりたくない、という思いも強いもの。そうした「プロ」の自己資産運用に実はもっとも適している方法とも言える。

4. 筆者の持論でもある「予測をなすべからず」である。筆者は実際には予測をしているが、予測に基いたポジションを持ったことは一度も無い。ファビアンが云う通り、予測に従えば「破滅に終わる。予測ではなくマーケットのトレンドにお金のありかを教えてもらうべきだ」。同感である。トレンドの判定は移動平均の方向のみというきわめて単純な方法であるが、個人投資家はそれで良い。自己の時間枠さえ守り、そのトレンドの方向でポジションを持ち続け、しっかりと資金管理さえ出来れば絶対に破滅することはない。逆に下落途上を「絶好の押し目」としたり上伸相場を「大天井」と見なすことほど危険なことではない。良く相場はその終局で乱高下するというが、必ずしもそうではない。相場は序盤にも、中盤にも、終盤にも突如として乱高下することがある。予測してはならない。そして予測をなしても、それに基いたポジションを取ってはならない。

5. の新規公開株には乗るな、というのは実はギャンが1930年代には既に述べていたことだった。だが、それも90年代後半には「過去のこと」になりつつあった。新規公開株は儲かる...時代は変わった...と何度説教されたことか。しかし、歴史の教訓は正しかった。ファビアンによれば、新規公開株は6ヶ月でインデックス以下となり、4分の3が2年以内に売出価格以下になる。インサイダーでない限りその売出価格で買うことすら出来ないのだから、損する確率はもっと上がる。181 - 182 ページは出色で、これは何度も読む価値がある。是非本を取ってみて欲しい。

6. の変化に備える、というのも大切だ。本書では11章「市場心理に備える」12章「ウォール街公然の秘め事」が該当する。特に規模のローテーション、スタイルローテーション、セクターローテーションは実はファンドマネージャーにとっては常識とも言える。これらのローテーションは比較的期間が短いので後追いするとどんどん負けてしまう。その愚もすっかり指摘しているのが良いところだ。IPO、クールネスラダーの項も面白い。ベア相場の3条件も面白いが、「儲けは見かけ通りだが損はみかけより(はるかに)きつい」というのは重要な真実だ。

7. のストップロスの利用は、あるいは非常に画期的かもしれない。12 - 15%高値から下落したら、その投信を売ってしまうのである。第一段階。購入時点の価格の12%下(つまり88%)になったら即時売却。第二段階。上昇したら、その最高値から12%下がったら売却する。トレイリングストップである。第三段階。目標の20%を超えた時点からのストップ。完全なプロテクティブストップ(つまり利益は32%以上になっている)となる。

8. のトレンドニングも、本書を理解する上で重要な概念だ。「勝者と敗者を分けるのは損した回数と儲けた回数の差ではない。それは儲けの質、つまり額だ」つまり勝率ではなく、総利益である。トレードでは当たり前のことであるが(でなければトレンドフォローイ

ングテクニックは全滅する) 投信の売買アドバイザーがこれを指摘するとは参った、というのが正直な感想だ。さらにファビアンは「この銀河系の中でもっともデイトレードを支持しない」そうだが、結局トレンドイングとは「長期トレンドが上昇のときに買い、下落のときに売る」のである。そしてリエントリーのルールも詳述されているのが良い。

以上徒然に、本書の興味深いところを上げてみた。本書は実践的であり、分かりやすい。ルールは明確であり、むしろ投資に長い経験を持つ人間の方が納得しやすいルールといえる。筆者はファイヤーウォールなどで個別株には投資できない(または6ヶ月以上の売買禁止期間を受け入れるかどうかであるが、6ヶ月という禁止期間が如何に資産を破滅に追いやるか、トレードを知っている人間ならば良く分かるであろう)。だが、投信は別である。おそらく多くの市場のプロフェッショナルも同じ規制を受けていると思われる。したがって、本書は単に長期的に資産を増やしたいという初心者だけでなく、むしろプロフェッショナルの自己資産管理にも大いに役立つ。そして投資の本質は短期にせよデイトレードにせよ長期投資にせよ同じであることを強く痛感させるものである。